

社会資本整備審議会都市計画・歴史的風土分科会 歴史的風土部会

明日香村小委員会 現地視察 意見交換会

議事録

日時：平成21年1月6日

会場：万葉文化館B1資料室3

16:55～17:30

委員長

- ・ 万葉文化館の館長である中西館長にご臨席頂いている。
- ・ 中西館長におかれては筑波大学教授、国際日本文化研究センター教授、京都市立芸術大学学長を歴任、現在は奈良県万葉文化館長のほか、国際日本文化研究センター名誉教授、京都市立中央図書館長をされている。万葉集研究の第一人者であり、2004年度に文化功労者顕彰、2005年度には瑞宝重光章を受章。
- ・ 冒頭に一言お願いします。

中西館長

- ・ 万葉文化館は開館して7年になる。全国の文化施設の中で「万葉文化」を冠した施設としては唯一であり、他には宇治市に「源氏物語」がある程度である。
- ・ 飛鳥には最古の歴史的風土が存在しており、最重要の地域である。京都芸大の時に北側大臣に歴史的風土を生かす国づくりを建白した。
- ・ 歴史的風土を日本の風土の中に位置づけられることに期待している。

委員長

- ・ 審議会ではないので自由なご意見を頂きたい。

A委員

- ・ 前回の小委員会当時から比べると村全体に随分小奇麗になったように思う。甘樫丘からの眺望も良くなっている。
- ・ ただ、前回の委員会では歴史的風土を守っていこうという雰囲気であったが、今回は土地利用の面から見ると攻めの方向に向かう姿勢が伺われる。このままでは村の生活自体が立ち行かなくなる。このためには観光と農林業を中心にこれらの連携による地域資源の有効活用が必要ということか。このままでは、一部の人にとっては魅力的かも知れないが、全体にウリのない、魅力のない地域になってしまう。このため、集中的に整備するところ、開発を進めるところをつくりメリハリをつけることが重要と思う。攻めの姿勢に入ってもいいのではないか。

B委員

- ・ 川原・野口地区の人口誘導については今回の計画の目玉として位置づけるべきである。明日香村では発掘すれば必ず何かが出るし、重要といわれる遺跡は既存の集落と重なっているのでその活用を考える場合身動きがとれない。コミュニティを生かしながら重要遺跡内やそれ

と隣接した住宅の建替のための（移転）誘導用地として考えれば、本地区における人口誘導策は文化財の保存活用方策の一端を担うものと位置づけられる。

C委員

- ・ 棚田オーナーなど新しい・良い部分も見たが、農村景観から見た場合、その他の地域と同様オーナーや直販所に頼らなければならないということは由々しき問題であり。文化的側面がもっと重視されていないのではないか。
- ・ 古代の文化がこの地には高度に蓄積されている筈。これは単なる文化財ではないが、今これら文化、工芸等が伝承されていない。他の地域とは異なり、明日香は日本の国の大元として平城京とも異なる地であり、農業だけに頼らずに文化・工芸・クラフトマンシップ等を育てていくこと、アートも含めこれらを新たな産業として起こしていく必要がある。
- ・ 残念なのは、折角の良い施設の周辺に「変なもの」が立地し景観が崩れていること。良いものを作ると却って周りに変なものが出来ることが問題。

D委員

- ・ 30年程前に橿原市今井町で修士論文を書いたがその頃と比べると橿原市は驚くべき程変化している。それから見ると明日香はその頃から殆ど変わっていない。回りはすごく変わっていくのに明日香は変わっていないけれどもすごく良いものが沢山残っている、自由はないがよいものが残っているという両面を村民の方はどのように思っているのか。こういうものが残っていることがすごく良いことだと考える、こうした面に重心を持っていく、作りこんでいく施策が必要ではないか。
- ・ 村の中で右肩上がりなのは夢市、夢販売所位で、これは農村的環境を巧くプラスに出来る条件として周辺に八木のような街があるからで逆にここが巧く生きている。こう考えると日本の農村・ふるさとの的なところと歴史の両方を巧くアピールできるのではないか。
- ・ 企業のCSR活動による森が守られる、CO2対策を含め森林の間伐等に大々的に力を貸すということは、企業の力を借りて森林を守るという可能性は十分にある。熊野はこのあたり巧くいっている例である。勿論熊野だからという背景もあるが。

E委員

- ・ 稲渚の棚田はオーナー制度としては成功例として何度も取り上げられているが、決して順風満帆ではない。高齢化しておりオーナーは手伝っているという程度にもなっていない。オーナーは当初の意図に反して農民に代われるまでには至っていない。問題は人口が減少しかつ高齢化が進んでいること。
- ・ この点で川原・野口地区の人口誘導についてだが、外から人が入ってくるといっても「後ろ向きの市民」つまり都会の方を向いて入って来て外に勤めにいってしまう。こういう人が張り付いても明日香の場合はあてにならない。私が住んでいる御園地区は混住地区で、年2回の大字の共同作業に出ない場合は1回6000円払う必要がある。ペナルティを課さない人が出てこないようなコミュニティではいけない。どうしても明日香に住みたいという人、農業をしたい人、芸術家など明日香の方を向いている人をどのようにして連れてくるか、2

世帯居住や一端出て行った若者に帰ってもらうこと、どうしてもすみたい人をどのようにして連れてくるか重要である。

県

- ・ 人口現象、少子高齢化が周辺より進んでおり加えて自主財源も少なく、税収状況も厳しい。
- ・ 歴史的風土をどのようにして守っていくか、この中で年々増える県の買入地をどのように維持管理していくのが、荒廃した里山放棄地、遊休農地をどのように解消していくのか、村をどのように活性化していくのかについて全庁あげて検討中。
- ・ 本委員会でご意見頂き県としての次期の県としての整備計画を策定に活かしてまいりたい。していきたい

委員長

- ・ 櫃原神宮前駅周辺等が、明日香、今井、藤原京などの玄関口であることを考えると、景観が乱れており、風雅に欠けるので、国や県に対応策をお願いしたい。
- ・ 合併しない選択をしたが、これをどれだけ貫けるか。もしも櫃原市を含めて合併した場合どうしても地方行政というのは全体を平均的に扱わなければならない。したがってどんなに歴史的遺産に理解がある議会でも飛鳥だけを特別視出来る訳ではない。
- ・ 合併しなかったところを財産にすべき。如何に苦しくても頑張るのが明日香村の独自性を貫く必要があるし、国、県も是非支援して頂きたい。
- ・ 今後古都行政には文化庁の協力も得られるようになったので、横断的に知恵や施策を動員していくことができる。
- ・ 形、姿が残っていることは大事で、文書だけではない歴史文化の存在が残っているということは形姿の問題でありこのことを重視して大切にすべき。アジアの中でわが国は独自の文化を築いてきたのであって、この中で飛鳥は古代の面影の中で現代が維持されている点で重要。
- ・ 一億円の交付金も大事ではあるが、もう少し国家的な投資を続けて欲しい。特に今後は飛鳥京苑池など色々な課題が出てくるので是非宜しくをお願いしたい。国交省と文化庁が一緒になって考えるようになった時代だからこそ、文化財の形を見せるということに努力して欲しい。

C委員

- ・ 明日香村をもっと世間にアピールすべきであると思う。企業の CSR 活動が林地だけに投入されているのはもったいないと思う。例えばサムソンがシルクロードに膨大な金を投じ、文化財の保存に係わる人材育成をしている。日本でも文化庁の壁画の保存に対して企業から金を出させることも必要では。飛鳥の文化財に投資してくれる企業にアピールし人材教育の場を作るべきではないか。

村長

- ・ 皆さんから大変ありがたいご意見を頂き感謝している。
- ・ まだ農林業が成り立っている時は財政的にも何とかあった。最近では農林業がだめになり、地元で働く場がなく、結果的に村で住めないという状況は致命傷だと思った。第3次整備計

画では「凍結的保存から創造的活用へ」という第一歩を踏み出して頂いた。今回は明日香村総合計画でも盛り込ませて頂いた。村内に働く場を作り一定の人口の村を作っていきたい。

- ・ 景観問題については当初景観阻害要因といわれた物件の対処がまだできていない。帰省の指導を行う上でも、村民感情に支障を来している。今後は阻害要因を解消し、皆努力しているのだからと村民に対し、見本となるようにしたい。
- ・ 村民の見方だけでは進まないと思うので皆さんのご意見も伺っていきたい

中西館長

- ・ どこかで本音で話し合う必要がある。住民の権益と国家ビジョンとは折り合う筈がない。それを避けるとどっちつかずになる。
- ・ かつて、岡倉天心が東京、京都、奈良に博物館をつくり夫々の時代的な役割を果たさせた。このコンセプトは近代以前を抜かしているので問題ではあるが、国家として美しい国土をどのようにして特徴を生かして見せるかということが大前提であった。
- ・ こうした点から飛鳥とはどういうこところかを明らかにして頂いて頂きたい。
- ・ 私はここ数年、飛鳥とは身体的に生きることができる空間であると強く思っている。特に夜は都会にはない真っ暗な空間が訪れてくる。明日香はぬばたまの漆黒の夜が来る「身体的に生きることのできる空間」、これが古代の象徴である。こういうことを体感できる空間は他に無い。こうしたコンセプトで考えると悠久の古代の中に静まりかえった象徴であり、この濃密で内向的な空間は個性でありこれを国家的コンセプトで保全することは可能であると思うがこれは一方的であってならなくて、これと等質等量であるのは住民の誇りであり、規制の中でしかたなく住むのではなく大きなコンセプトの中に生きることが重要。抜本的に国家ビジョンと地域という中で考えて頂きたい。
- ・ 飛鳥はかつては過密都市であり重層的な埋蔵文化財をきちっと見せること、単にキトラや高松塚を見せるということではいけない。大きなコンセプトの中で見せる、これでよいのなら住みなさい、全世界的、全日本的なニーズはあるし単に橿原のベッドタウンとなっはいけない。

事務局

- ・ 飛鳥はこれまでのような凍結的な保全ではなくこれからは、この美しい自然、良好な農村風景、濃密な文化を如何にブラッシュアップしていくかが課題。
- ・ 村の人が住みたいのは勿論として、新しい住民を誘導する、この場合アートも含めここで何かしたい若い人を惹きつける、現代的な魅力の中で、国家的な魅力の中で生かしていくべき。